

2025年卒業予定者の採用面接が今月1日に正式に解禁され、就職戦線は山場を迎えた。深刻な人手不足を背景に企業の採用意欲が高まる中で、内定率はどのように変化しただろうか。6月1日現在のキャリタス就活・学生モニターの就職活動状況を調査した。

過去の6月調査結果との比較も交えながら、全体的な活動状況を確認したい。

### 1. 6月1日現在の内定状況 (※)

- 内定率は85.2%。前年同期実績(81.3%)を3.9ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の64.2%。継続者は「内定あり」「内定なし」を合わせて35.8%。文理差が大きく、文系は4割以上が継続(42.6%)。理系は2割台(24.7%)

### 2. 内定保持学生の未決定理由

- 「本命企業がまだ選考中」が最多。「複数内定で優劣つけがたい」が前年より大きく増加

### 3. 内定を得た企業の業界

- 「情報処理・ソフトウェア」に内定が集中、文理男女とも3割超で1位

### 4. 選考試験の受験状況

- ES提出社数は前年より微減。筆記試験、面接社数は前年を上回る(9.7社、8.6社)
- 面接形式は依然WEB主流も、最終面接は「対面」が7割超に(72.9%)

### 5. 就職活動継続学生の動向

- 選考中の企業数は平均2.3社。これから受験する企業は1.7社
- 今後の方針、未内定者は「新たな企業を探しながら、企業の幅を広げていく」が最多
- 「規模にこだわらずに活動」する学生が41.3%。5月調査(32.4%)より大きく増加

### 6. 内定後のフォローによる志望度(入社意欲)の変化

- フォローを受けて「志望度が上がったことがある」43.4%。特に文系で高い

### 7. インターンシップ等 (※) 参加企業の本選考への応募と内定

- インターン等参加企業の本選考への応募は87.6%。応募者の75.5%が内定獲得。前年より増加
- 本選考への応募理由「プログラム参加を通じて志望度が高まった」(74.7%)が最も高い

※「内定」には、内々定を含む

※「インターンシップ」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて尋ねた

## 調査概要

調査対象：2025年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)  
回答者数：1,160人(文系男子315人、文系女子405人、理系男子290人、理系女子150人)  
調査方法：インターネット調査法  
調査期間：2024年6月1日~6日  
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2025  
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

## 1. 6月1日現在の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は85.2%。先月調査(5月1日76.9%)からの1カ月間で8.3ポイント上昇し、前年実績(81.3%)を3.9ポイント上回った。今期は序盤から高い内定率を記録。高水準で推移した前年(24年卒)を大幅に上回るペースで進行し、選考解禁のこのタイミングで8割半ばに達した。早期化が一層進んだ様子が読み取れる。

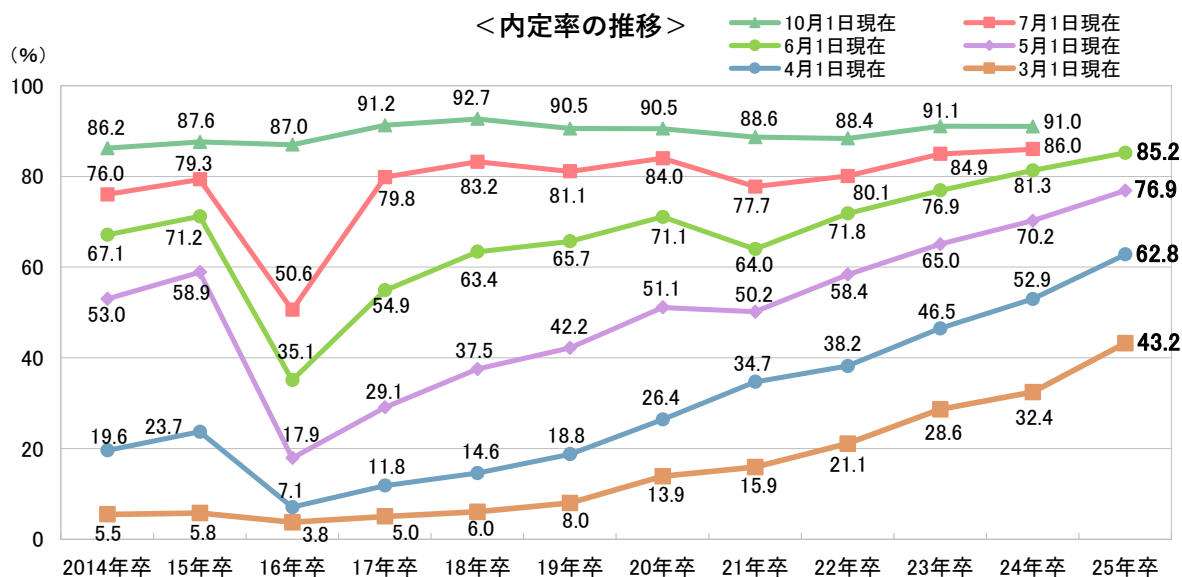
現時点の内定率を属性別に確認すると、文系に比べ理系で高く、理系学生は9割前後をマーク(理系男子87.9%、理系女子93.3%)。

<6月1日現在の内定状況> \*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		85.2 (81.3)	82.9 (79.6)	82.0 (82.2)	87.9 (81.3)	93.3 (83.4)
内定なし		14.8 (18.7)	17.1 (20.4)	18.0 (17.8)	12.1 (18.7)	6.7 (16.6)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	66.2 (61.9)	60.2 (52.7)	59.0 (54.2)	76.9 (80.1)	75.0 (64.3)
	活動は終了したが複数内定保持	8.2 (9.0)	8.0 (10.0)	10.5 (11.6)	7.8 (5.6)	3.6 (7.1)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.9 (0.5)	1.1 (0.0)	0.3 (0.3)	1.2 (0.8)	1.4 (1.6)
	就職活動継続	24.7 (28.6)	30.7 (37.3)	30.1 (33.9)	14.1 (13.5)	20.0 (27.0)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.5 (2.3)	2.6 (2.3)	2.7 (2.5)	2.4 (2.3)	2.3 (2.4)

※( )内は前年(6月1日現在)の数値

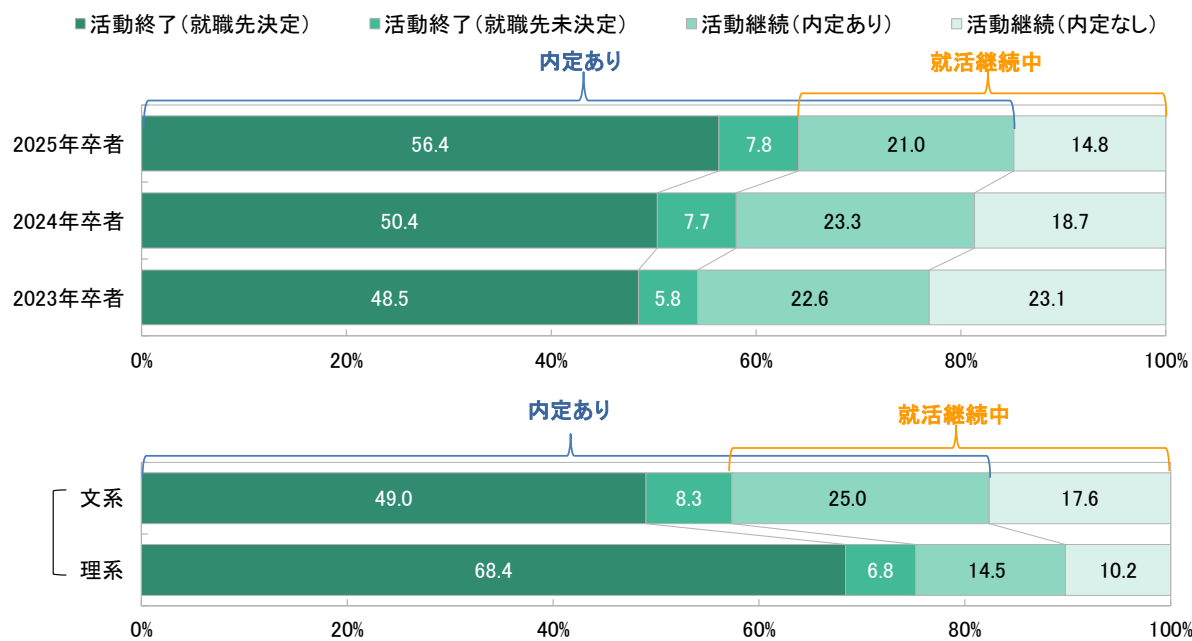


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~25卒は6月

回答者全員を分母に活動状況の分布を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は56.4%。複数内定を保留しているなど未決定である者(7.8%)を合わせると、終了者は64.2%となる。内定率の上昇だけでなく、内定取得者における就職先決定者の割合も増えたことで、前年同期(58.1%)よりさらに増加した。

活動継続者は「内定あり」(21.0%)、「内定なし」(14.8%)を合わせて35.8%。継続者の割合は文系において高く、内定保持者も含め文系学生の4割以上(計42.6%)が継続中と回答した(理系は同24.7%)。

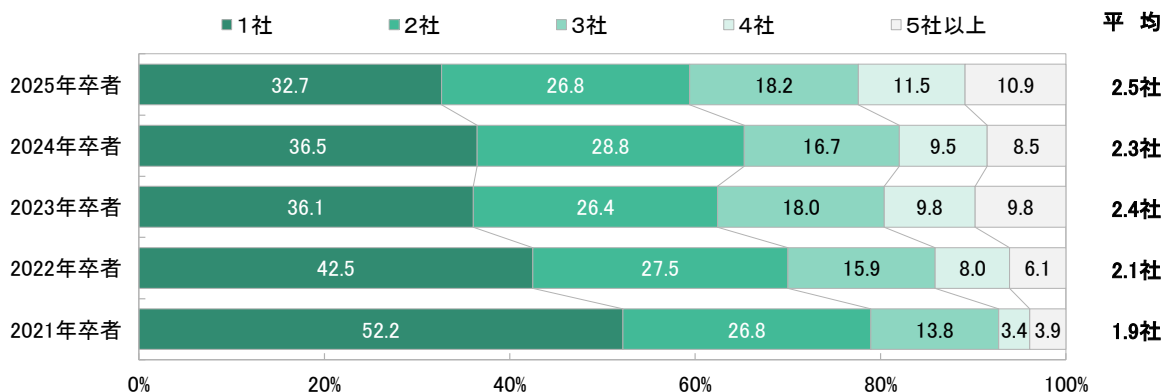
<活動状況の分布>



内定を得た学生一人あたりの内定取得社数を詳しく見てみると、「1社」という学生は32.7%で、残りの7割近くが複数の企業から内定を得ている(67.3%)。前年調査と比較すると、「1社」「2社」の割合がそれぞれ減少し、「3社」以上から内定をもらう学生が増えた。平均社数は2.5社。

コロナ禍が始まった年に就職活動をした2021年卒者は「1社」が半数を超えていたが(52.2%)、売り手市場の傾向が強まるに従い、複数内定が大半を占めるようになった。企業側から見れば内定辞退のリスクが高まっており、内定後のフォローの重要性が増している。

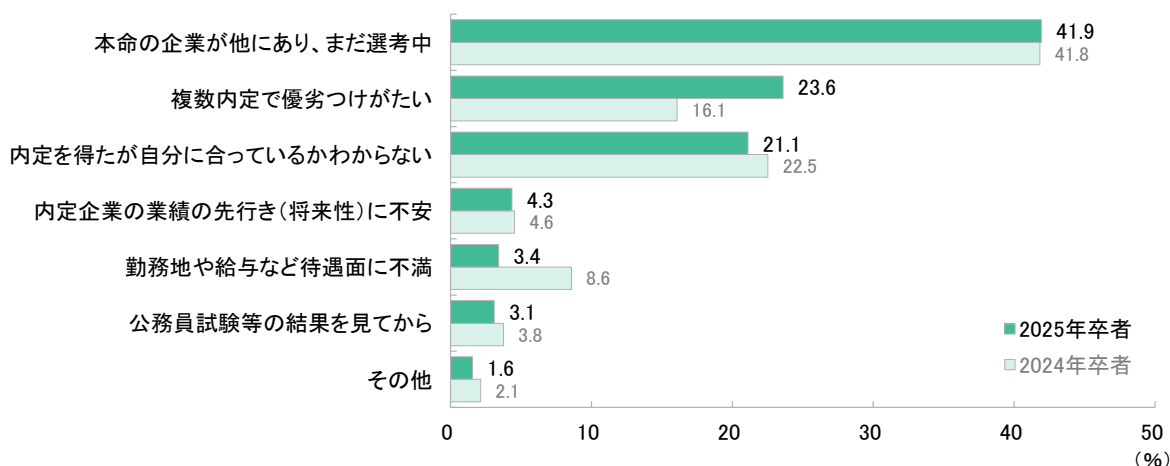
<6月時点の内定社数の内訳>



## 2. 内定保持学生の未決定理由

内定を取得しても就職先を決めていない学生(モニター全体の28.8%)にその理由を尋ねると、最も多いのが「本命の企業が他にあり、まだ選考中」という回答で(41.9%)、本命企業の結果次第という状況だ。「複数内定で優劣つけがたい」(23.6%)、「自分に合っているかわからない」(21.1%)と続き、内定は得たものの承諾を迷う学生が一定数いることがわかる。特に「複数内定で…」は前年より大きく増加しており(16.1%→23.6%)、前ページで確認した内定獲得社数の増加が、なかなか就職先を決められない要因につながっているようだ。

<内定保持者が就職先を決めていない理由>



## 3. 内定を得た企業の業界

6月1日現在で内定を得た学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。5月調査までに引き続き「情報処理・ソフトウェア」が最も多く、35.9%と集中度合いが極めて高い。文理男女のいずれにおいても1位であり、文理や男女といった属性に関わらず、多くの内定が出ている様子がわかる。中でも理系男子は4割に上る(40.0%)。

全体の2位は「建設・住宅・不動産」(18.1%)で、3位「人材サービス」(14.3%)と続く。

<内定を得た業界(上位10業界)>

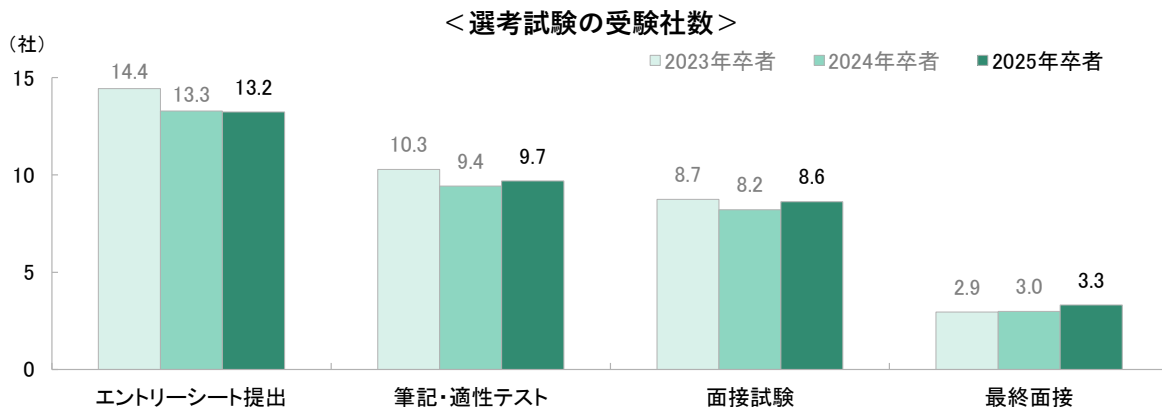
全体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 35.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 34.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 32.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 40.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 38.6
2	建設・住宅・不動産 ② 18.1	銀行 22.2	銀行 18.7	建設・住宅・不動産 23.5	建設・住宅・不動産 20.7
3	人材サービス・人材紹介・人材派遣 ⑥ 14.3	調査・コンサルタント 19.9	保険 18.1	電子・電機 22.7	水産・食品 16.4
4	調査・コンサルタント ④ 13.5	建設・住宅・不動産 16.5	その他サービス 16.6	自動車・輸送用機器 22.0	人材サービス・人材紹介・人材派遣 15.0
5	銀行 ⑤ 13.3	人材サービス・人材紹介・人材派遣 16.1	人材サービス・人材紹介・人材派遣 15.1	機械・プラントエンジニアリング 19.2	素材・化学 14.3
6	電子・電機 ③ 11.2	保険 14.9	建設・住宅・不動産 14.2	素材・化学 11.8	電子・電機 12.9
7	自動車・輸送用機器 ⑨ 10.8	運輸・倉庫 9.6	運輸・倉庫 13.0	人材サービス・人材紹介・人材派遣 11.0	医薬品・医療関連・化粧品 11.4
8	その他サービス ⑧ 10.5	その他サービス 9.6	調査・コンサルタント 12.3	調査・コンサルタント 11.4	自動車・輸送用機器 11.4
9	保険 ⑮ 10.1	情報・インターネットサービス 9.6	専門店 10.5	水産・食品 7.1	専門店 9.3
10	運輸・倉庫 ⑬ 9.9	商社(専門) 7.7	ホテル・旅行 7.7	その他サービス 6.3	調査・コンサルタント 8.6
				運輸・倉庫 6.3	商社(専門) 8.6

※6つまで選択 (%)

※○の中の数字は前年同期調査の順位  
 ※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

#### 4. 選考試験の受験状況

選考試験の受験状況を確認したい。エントリーシート (ES) の提出社数の平均は13.2社で、前年同期 (13.3社) からわずかに減少。ただし、筆記試験 (9.4社→9.7社)、面接試験 (8.2社→8.6社)、最終面接 (3.0社→3.3社) は、それぞれ前年同期をやや上回る。早期化で次の選考ステップに進むタイミングが早まっていることに加え、通過率も高まっていることが影響していると考えられる。



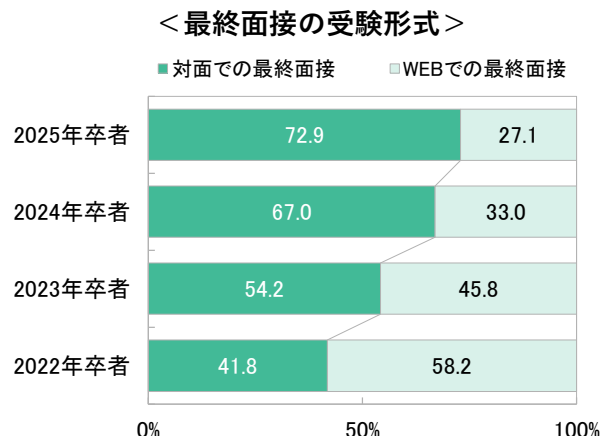
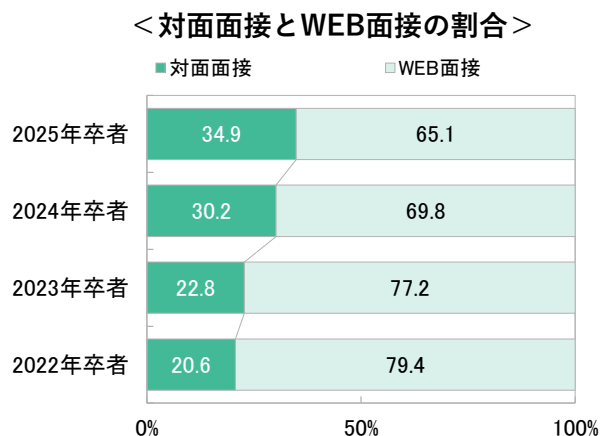
※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出

**<選考試験の受験状況>**

(%)

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシートを提出した	95.6	94.9	94.9	97.5	94.8	93.3
筆記・適性テストを受けた	94.4	94.3	95.8	96.3	92.0	91.2
面接試験を受けた	94.4	93.4	95.2	96.0	91.7	93.2
最終面接を受けた	89.7	87.6	89.7	89.6	89.6	90.5

これまでに受けた面接試験について対面とWEBの割合を尋ねると、対面での面接が34.9%でWEB面接が65.1%。前年と比べると対面の比率がやや増加したものの、依然としてWEBが主流だ。しかし、最終面接に限ると対面が7割を超える (72.9%)。2022卒では41.8%だった対面の割合が、この3年で30ポイントあまり増加した。コロナ禍の収束後は、初期の面接はオンラインで効率的に実施し、採用の可否を決める最終局面では対面で実施するなど、選考のフェーズや目的に応じて使い分けをする企業が増えたが、今期はその流れがさらに強まったことが読み取れる。



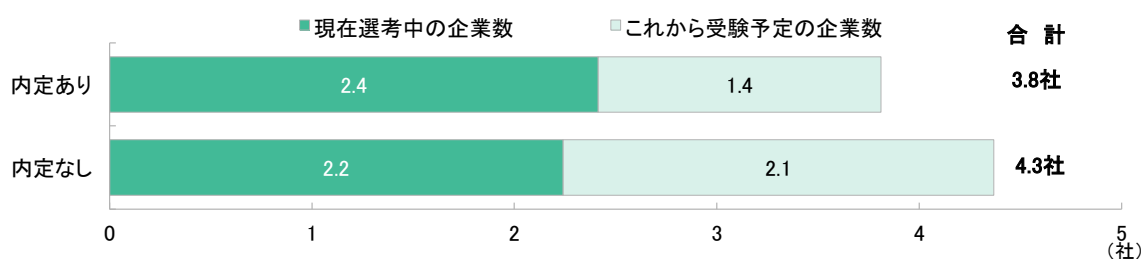
## 5. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の35.8%）の動向を確認したい。

現在選考中の企業数は平均2.3社で、これから受験予定の企業数は1.7社。合わせて4.0社がいわゆる持ち駒企業。これを内定の有無別に見てみると、「内定あり」学生は現在選考中の企業数が2.4社。これに対し「内定なし」の学生は2.2社とやや少ないが、その分これから受験予定の企業数が2.1社と多い。

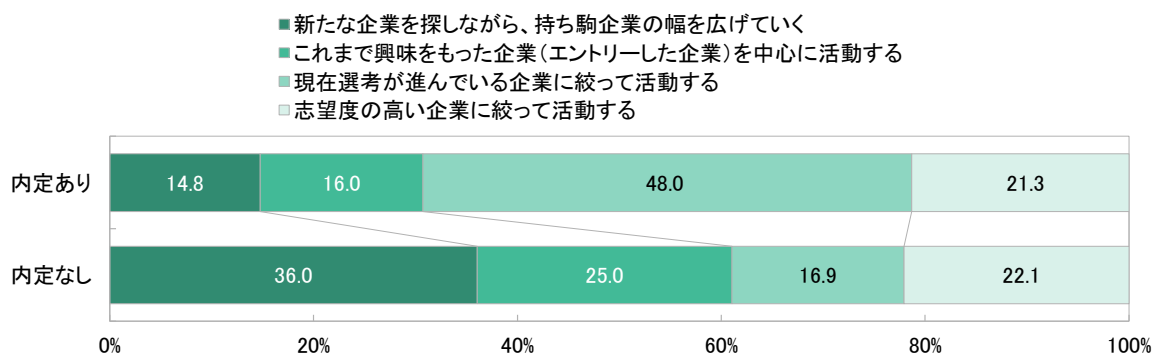
### <持ち駒企業数>

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	2.3	2.4	2.4	2.6	1.9	1.7
これから受験予定の企業数	1.7	1.8	1.7	1.8	2.0	0.9

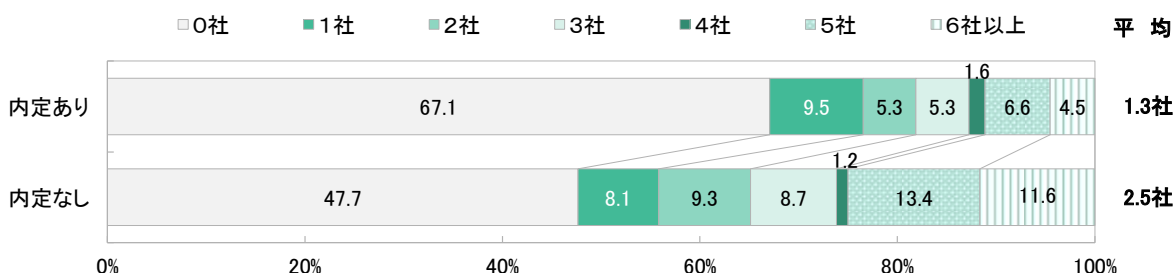


今後の活動方針についても内定の有無で違いが見られ、内定がある学生は「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が半数近くを占める（48.0%）。一方、未内定学生は「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」という回答が最も多い（36.0%）。その姿勢は今後のエントリー予定社数にも表れており、内定保持学生が平均1.3社に対し、未内定学生は2.5社。積極的に受験企業を増やそうとする意欲が感じられる。

### <今後の就職活動の方針・戦略>

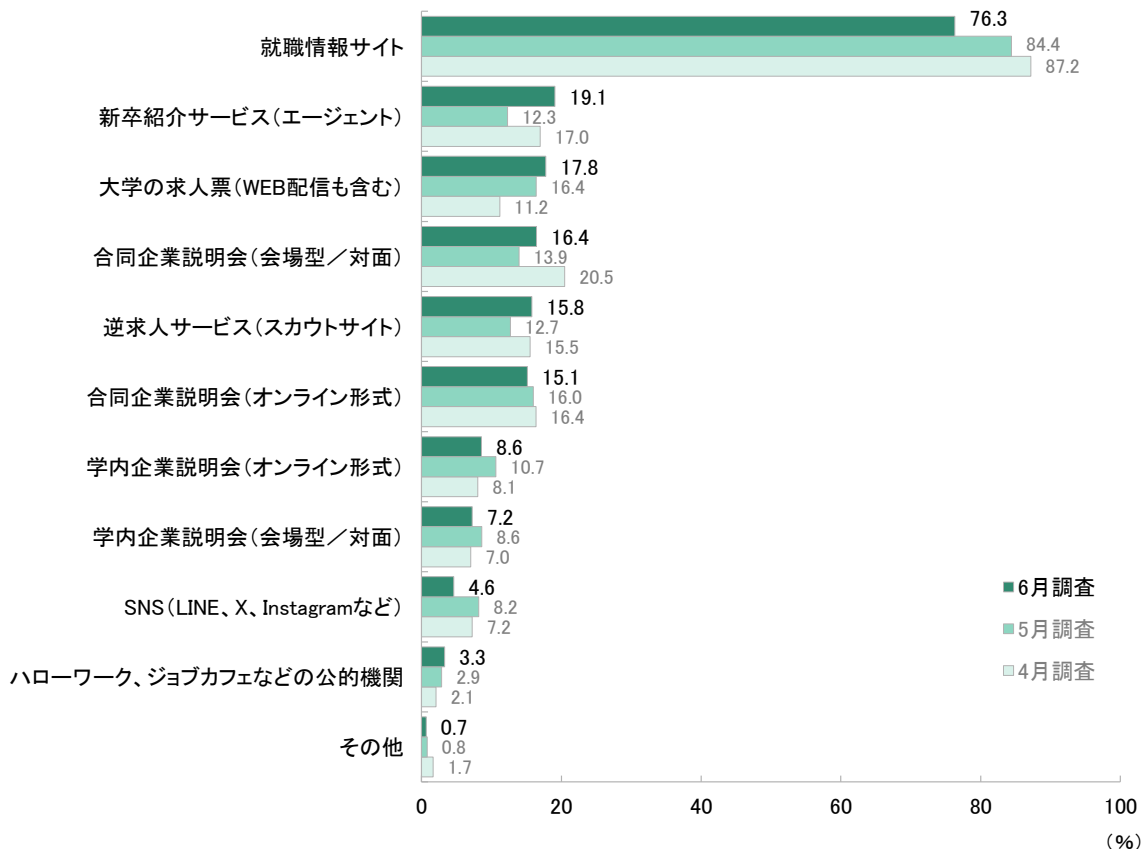


### <今後のエントリー予定社数>



新たな企業を探す手段(ツール)については、「就職情報サイト」が7割強と圧倒的に多いが(76.3%)、4月調査、5月調査に比べると減少。代わりに「新卒紹介サービス(エージェント)」(19.1%)や「大学の求人票」(17.8%)などが増加した。就職情報サイトで最新の情報を得ながら、様々な手段を使って新しい企業を探そうとする学生の様子が見て取れる。

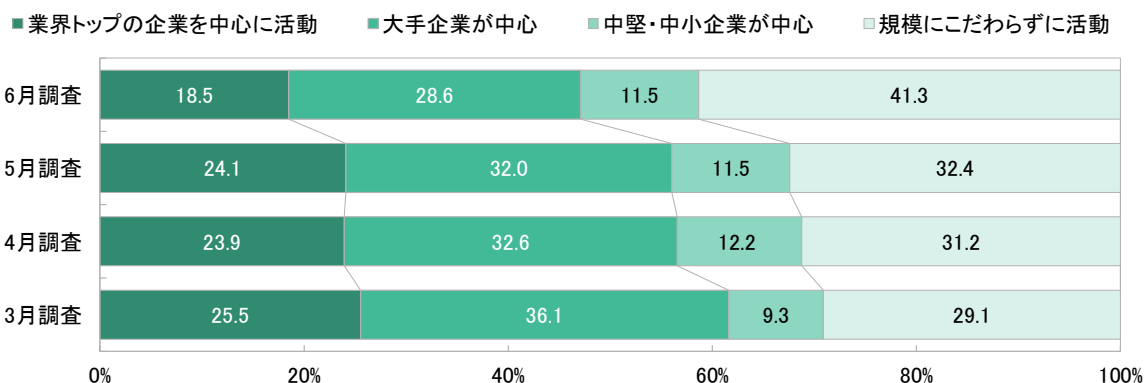
<新たな企業を探す手段>



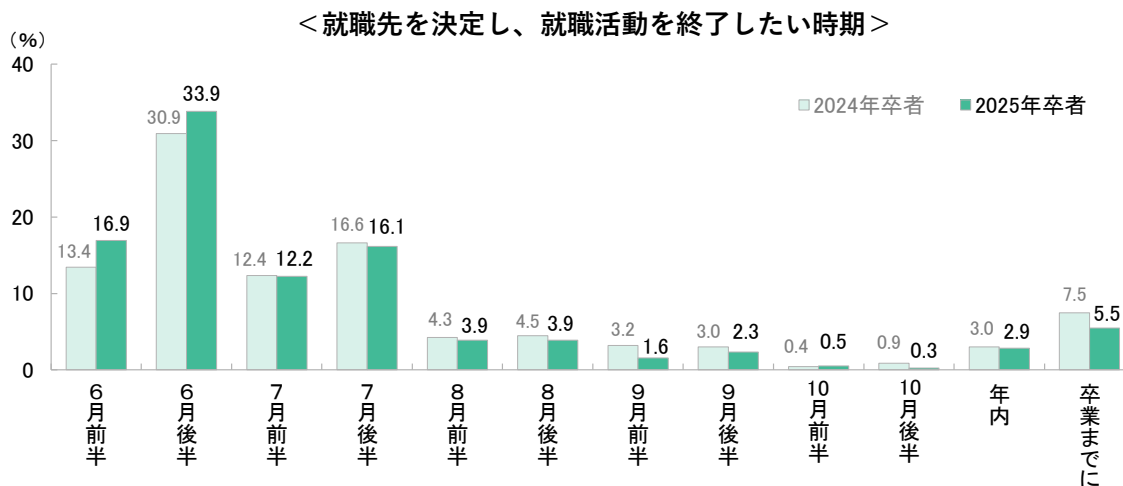
就職活動の中心にしている企業規模についても推移をまとめた。

採用広報開始直後の3月調査時点では、6割超の学生が業界トップや大手企業を目指していたが(計61.6%)、6月調査では4割台まで縮小(計47.1%)。「規模にこだわらずに活動」する学生は、5月から6月にかけて大きく増加し、4割を超えた(41.3%)。ここから先、企業規模にとらわれずに活動する動きはさらに増えていくものと見られる。

<就職活動の中心にしている企業規模>

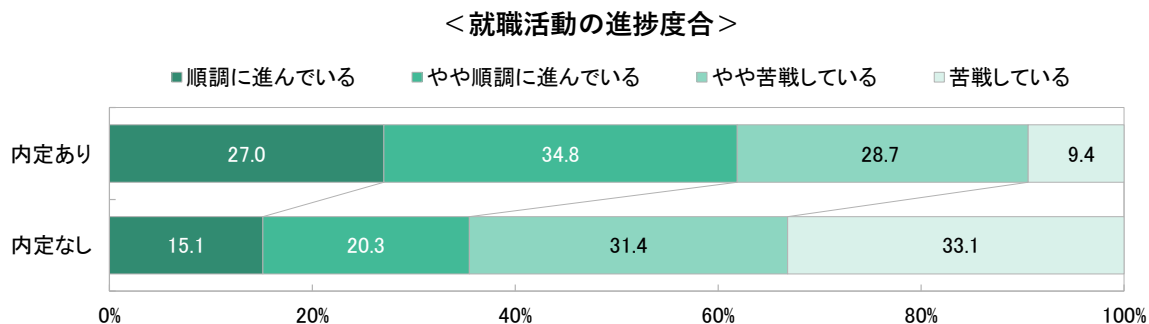


就職先を決定し就職活動を終了したい時期は、「6月後半」(33.9%)が最も多い。6月は前半・後半ともに前年調査を上回り、6月に終了したいと考える学生が増えた。7月までを足し合わせると8割近くになり(計79.1%)、できれば夏休みの前には終了の目途をつけたいとの意向が汲み取れる。一方、「年内」「卒業までに」と長期戦を考える学生も一定数見られる。



就職活動の進捗度合を尋ね、内定の有無別に集計した。「順調」「やや順調」という回答は「内定あり」の学生で6割超(計61.8%)に対し、「内定なし」の学生は3割強(計35.4%)。20ポイント以上の差がみられ、未内定者において、厳しさを感じている様子がうかがえる。

一方、内定があっても3割強の学生は「苦戦」と回答(計38.1%)。志望度の高い企業にはなかなか受からない、といった声などが寄せられた。



**■「順調に進んでいる」と思う理由**

- とりあえず内定は持っているため。 <理系男子>
- 内定を保持した状態で、さらに志望度の高い企業を受けることができているから。 <文系男子>
- 本命だった企業の選考が始まり、面接の案内が来た。 <文系女子>
- 志望度の高い企業の最終面接に進めている。 <理系女子>

**■「苦戦している」と思う理由**

- 4、5月で内定を取れていないから。 <理系男子>
- 志望度の高い企業にはなかなか内定をいただけない。最終面接で落ちてしまう。 <文系女子>
- 最も行きたかった企業は一次面接で落ち、第二志望の業界の選考も思うように進んでいない。 <文系男子>
- 今になって入りたいと思う会社を見つけていて、時期的には少し遅いかなと感じる。 <理系女子>
- 何が正しいのか分からなくなってきた。親の意見と自身の意見の対立が精神的にきつい。 <文系女子>

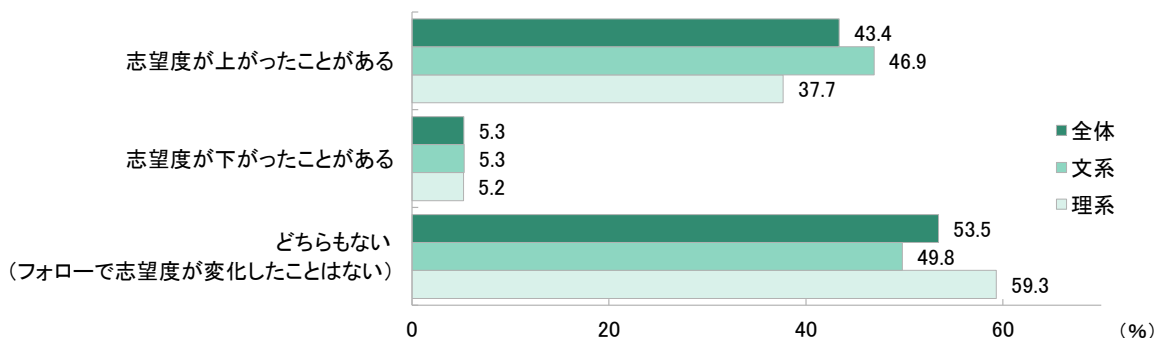


## 6. 内定後のフォローによる志望度（入社意欲）の変化

内定を得た企業から内定通知後に受けたフォローで、志望度や入社意欲に変化があったかを尋ねた。「志望度が上がったことがある」が4割を超えており（43.4%）、内定後のフォローが入社意欲を高めるのに一定の効果をもたらしていることが読み取れる。特に文系で高い（46.9%）。

一方で「志望度が下がったことがある」ケースもわずかながら見られ（5.3%）、適切な頻度や内容でのフォローが求められる。

<内定後のフォローによる志望度（入社意欲）の変化>



### ■志望度が上がった、嬉しかった内定者フォロー

- これまで担当いただいたメンターや面接官の方が連絡やメッセージをくださったことは非常に嬉しく、信頼度が上がるきっかけになりました。 <文系男子>
- オンライン面談に社員が3人も参加してくださり、大学のOBもわざわざ来てくれた。 <文系女子>
- 研究所を見学でき、志望度が上がった。 <理系男子>
- 選考時に聞きづらかった質問にLINEで回答してくれた。 <文系男子>
- 人事の方や、同期となる人達がとても親切で、この人たちと一緒に働きたいと思った。 <理系女子>
- 内定者面談で、入社後の待遇などについてさらに詳しく教えてもらった。 <理系男子>
- 交流会を兼ねた対面のワークショップのイベントがあり、自身のキャリアや共に働く人を深く理解することができた。オンライン面談も複数回用意してくれた。 <文系男子>
- 人事担当者との面談で、企業のありのままの姿を伝えてくれようとする姿勢に魅力を感じた。 <文系女子>
- 懇親会で美味しい焼肉に連れていってもらった。 <文系男子>
- 年次の近い先輩社員を紹介してもらい、わからない点についてはいつでも聞ける状態を作っていただいたことが有り難かった。 <文系女子>

### ■志望度が下がった、不快に感じた内定者フォロー

- 承諾期限まで頻繁に電話がかかってくる。 <文系女子>
- 内定承諾期限を延長したいと伝えたら、態度が悪くなった企業があった。 <理系女子>
- 内定者交流会を開いてくださるのはありがたいが、頻度が多いと少し億劫を感じる。 <文系男子>
- 「配属先の人と面談を組める」と言われたので楽しみにしていたが、連絡がなかった。 <理系女子>
- 研究活動が忙しいのに内定者イベントのメールが頻繁に届いた。 <理系男子>
- 内定者向けの人事面談で社員の対応や内定者へのフォローが雑で、あまり会社に大切にされていないように感じてしまった。 <理系女子>
- 企業のいいことばかりを学生に伝えていて、本音で向き合ってくれていると感じなかった時。 <文系男子>
- 詳しい働き方を現場社員に質問したところ、公表しているデータと異なっていたこと。 <理系女子>
- 自社の魅力をアピールするために、受けている他企業に入った場合のデメリットを伝えられた。 <文系女子>
- 内定後にあまり接触がないと寂しく感じる。 <文系男子>

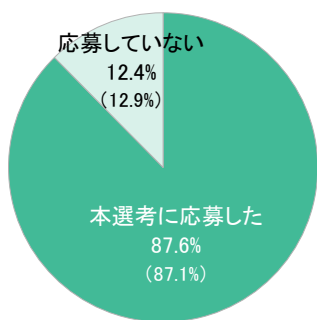
## 7. インターンシップ等参加企業の本選考への応募と内定

インターンシップ等プログラムへの参加経験がある学生(モニター全体の89.0%)に、参加企業への本選考応募と参加企業からの内定の有無を尋ねた。

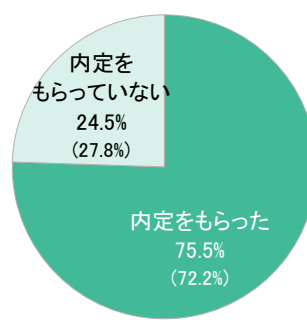
「本選考に応募した」は8割強(87.6%)で、応募経験を持つ学生が大半。本選考応募社数の平均は6.2社で、参加社数(12.1社)の約半数。本選考応募者のうち実際に内定をもらった経験を持つ学生の割合は75.5%で、前年調査(72.2%)を上回る。内定社数の平均は2.3社と、前年調査(2.1社)より増加。複数の参加企業から内定を得る者も少なくない。

本選考に応募した理由を尋ねると、「プログラムへの参加を通じて、志望度が高まった」が最も高い(74.7%)。参加したことで企業理解が深まり、就職先として意識するケースが多いことがわかる。次いで「早期選考だった」(56.1%)、「プログラム参加学生の優遇があった」(36.5%)が続き、インターンシップ等のプログラムに参加した学生を本選考につなげようとする企業の戦略も透けて見える。

<インターン等参加企業への本選考応募>



<インターン等参加企業からの内定>



※インターンシップ等参加経験者が回答(1日以内のプログラムも含む)  
※( )内は前年同月調査の数値

※インターンシップ等参加企業の本選考応募者が回答

	インターン等参加社数	プレエントリー社数	本選考応募社数	内定社数
2025年卒者	12.1社	9.4社	6.2社	2.3社
2024年卒者	11.5社	8.8社	5.9社	2.1社

※それぞれ、経験者を分母に平均社数を算出

<インターンシップ等参加企業の本選考に応募した理由>

